

18

けつようび

いちにちに 5ふんだけ!

マタイ
18章 19~20節

まごとに、あなたがだにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。

人生はただ一度だけしかありません。それゆえ、神の子どもらしい、価値ある生活をしなければなりません。それは、神様がくださった愛である福音を毎日味わうことです。また、神様がくださった最高の使命を見つけましょう。毎日、私をいやして、私をサミットにする生活をはじめれば、見つけることができます。最初に、一日5分だけ集中しましょう。朝にみことばを刻印（詩5:3）と、夜に一日を点検（詩17:3）しましょう。昼にはみことばに根をおろして、現場のみことばをかくにん確認（詩23:1）しましょう。二つ目、特別な時間を持ちましょう。家で神様に集中できる私だけの空間を見つけて、5分だけ時間を過ごしましょう。教会で友だちといっしょに集いを持つのも良いでしょう。ふたり三人が集まって祈るとき、神様がともにおられるからです。（マタイ18:19~20）三つ目、一日5分、特別な時間を持つならば、特別な答えがきます。その答えを受ければ、ピリボ執事やパウロ使徒のように、行くすべての現場をいやして生かす霊的サミットになります。今日から一日5分！神様に集中することにしましょう。福音で世の中を変える価値ある生活がはじまるでしょう。

きょうのみことば

きょうのいのり

父なる神様！神の子どもとしてくださり、最高の価値がある福音を知らせてくださって、ありがとうございます。毎日、5分ずつをもって、特別な時間に特別な答えを体験して、現場を生かす子どもになりますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

新しい家族および現場働き人修練会 3講 | 2017.7.18



書いてみよう

いちにち5分だけ生かす時間を持ちましょう。ダビデは朝、昼、夜に時間を持ちました。その告白をなぞって書いて、私はどのように3つの時間を生かすのか考えてみましょう。



主よ。朝明けに、私の声を聞いてください。
朝明けに、私はあなたのために備えをし、見張りをいたします。

詩篇5篇3節のみことば

あなたは私の心を調べ、夜、私を問いただされました。
あなたは私をためされましたが、何も見つけ出されません。
私は、口のあやまちをしまいと心がけました。

詩篇17篇3節のみことば

主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。

詩篇23篇1節のみことば

きょうのでんどう

あひと
会う人

じゅんびが
準備する資料



19

かようび

わたしを かえる ちから

エレミヤ 33章3節

わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。

一日は、24時間です。分では、1,440分です。一日は、このように長い時間なので、私はこの時間をどのように使っていますか。ある人は良い職業を手に入れるために熱心に勉強します。また、ある人はおいしい食べ物を食べたり、ぐっすりと眠ることに集中して生きていきます。

神様は私がするすべてのことを、理由があるようにつくってくださいました。そのような神様が、最も重くご覧になっている時間があります。神様のみことばを心に入れる時間です。ところが、サタンはこの時間だけ送れないように邪魔します。みことばを黙想して心に入れば、私が変わって変化するからなのです。サタンは、私が神様に心より礼拝をささげることを最もいやがります。ただ私のために生きて、目に見える良いこと、成功だけについて行くことを望みます。神様と遠くなるようにさせたいのです。しかし、神様は礼拝をささげる時ごとに、私の考えと心、たましいに力を与えてくださいます。その力で私が生かされれば、まわりの人々も自然に生かされるからです。

今日、私のすべての祈りを聞いてくださって、答えてくださる神様に、心を開いてみことばを入れましょう。理解を越えた大いなる事まで見せてくださるでしょう。

きょうのみことば

Blank lined area for writing the daily verse.

きょうのいのり

父なる神様！きょうも神様のみことばを私の中心に入れて、考えを変え、時間を持つように導いてください。そして、神様の願っておられる判断をすることができるように導いてください。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



見つけて書こう

エレミヤは神様がくださる力を味わっていた預言者でした。祈って与えられる力を味わっていたエレミヤに臨んだ神様のみことばを聖書から見つけて書いてみましょう。



きょうのでんどう

Grid area for writing the daily devotion.

会う人

準備する資料

Lined area for preparing resources.



20

すいようび

レムナントが しなければならぬ 3つのこと

マルコ
3章 13~15節

さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。

世の中はずっと発展しています。ところが、病氣と問題はますます増えています。人の力では解決できないことも起きます。このようになる世の中を、先にご存じだった神様が、私たちを別と呼んで福音をくださいました。そして、福音を知らない苦しみを味わっている人々に、福音を伝えなさいと言われました。私たちが、世の中に福音を伝える前に3つのことを先にしなければなりません。

最初に、福音に集中する奥義を持ちましょう。世の中は、人々が神様を知らないようにさせます。ですから、神様に集中しなければならぬ人が方向を失って、分裂したり、執着したり、中毒になってしまうようになりました。このような世の中を知って、福音に集中しなければなりません。二つ目、毎日、神様がくださる力を受けましょう。霊的問題を起こす世の中を生かしに行かなければならぬからです。三つ目、イエス様の十二弟子のように、神様がくださるメッセージを握らなければなりません。メッセージを握った彼らは、自分の水準と関係なく、悪霊につかれた者をいやして、世界福音化の証人になりました。

3つすることを覚えて、挑戦しましょう。神様が願われるレムナントとして、私の現場を生かして、世界を生かすようになるでしょう。

きょうのみことば

きょうのいのり

父なる神様！福音をくださって、ありがとうございます。福音に集中するとき、与えられる力で神様のみことばに従っていく弟子になるように導いてください。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



さんびしょう

219番「おそれなく近よれ」を歌いながら、私にくださった福音をまず味わいましょう。そして神様のみことばの中からくださる御声を聞いて、現場に行きましょう。

おそれなく近よれ
「真ん中から神に近づこうとはありませんか」
(ヘブ 10:22)

219

O Lord
Crosby, 1875 (1st)
ふつうに、オー・ロード

I AM THINE
W. HOWARD DOANE, 1875

1. おそれなくちかよれと主はかたりたもう
2. このみをばほしうといまささくればよ
3. みまえてすごしうるわがよるこりびえん
4. みめくみのふかきことついにさとりえん

しんこうのてのばしつちかづきまつらん
きみがむねひとすじになさしたまえ
へたてなきとものごとあつかいたも
このよにてよろこびをきわめえずとも

(おわりえし)

いよいよよながそばにわれをひきよせ
いよいよ主よながあいのひろさしらせよ

聖潔

きょうのでんどう

会う人

準備する資料

Handwriting practice area with a grid pattern.

Handwriting practice area with horizontal lines.



22

きんようび

かみさまが よばれて もちいられる レムナント



ワーク

福音のない時代がくりかえさないようにしなければなりません。
神様の愛をこめた伝道トラクトを完成して、友だちに渡しましょう。

この世でいちばん大きなプレゼント

準備するもの | 次のページのトラクト、おりがみ、はさみ、のり

- おりがみを、三角形になるように、半分において、折り目をつけて、開いて反対に三角になるようになっています。
- 三角形の真ん中の頂点に、両側の端をあわせるように、写真のようにおきます
- もう一度、開いて、おり線にそって、内側に入れて、写真のような形にします
- おりがみの閉じている部分を、中心にあうように、前、うしろに、おきます
- もういちど、開いて内側に入れます。下のとがっている部分を切って、長い三角形にします
- 両側をはさみですこしずつ切ります。3か所程度切りましょう。
- 切った部分を内側に入れます
- 私だけのかざりをつけて、伝道トラクトにはって「この世でいちばん大きなプレゼント」のトラクトの完成!

Ⅱ列王 2章9～11節

渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「私はあなたのために何をしようか。私があるところから取り去られる前に、求めなさい。」すると、エリシャは、「では、あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように」と言った。

歴史とは、すでに生きてきた世の中の事件のことを言います。ところが、歴史はずっと繰り返されています。福音を知っている人を通してわざわいの時代から抜け出して、福音をのがして、また再び、わざわいの時代がきたのです。ですから、神様は、いまでも福音を回復するひとりをお呼びくださいます。エリシャのようになります。3つをそろえた人になるように祈れば良いのです。

最初に、わざわいを防ぐ者として呼ばれました。神様が与えられているすべてのことは、この時代を生かすために土台として準備するためです。これが「神様が私に必要な訓練をさせられているのだな」と思う理由です。二つ目、エリシャが生きていた時代のように、教会にわざわいを防ぐ者として呼ばれました。これから来る未来を準備するように、エリシャのように神様に霊の二つの分け前を求めれば良いのです。三つ目、福音を持った残りの者として私をお呼びくださいました。友だちは、いま、サタンがつくった文化に捕虜になっています。友だちを生かすように、神様が私とともにいると言われました。御使いを送ってください、私を手助けする霊的祝福もくださるでしょう。

約束されたことは守ってくださる神様を信じて、今日から挑戦しましょう。

きょうのみことば

Blank lined area for writing the daily verse.

きょうのいのり

父なる神様！繰り返すわざわいと回復の歴史から出て、福音で生かす者になるように、私に恵みをください。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

きょうのでんどう

Blank lined area for writing the daily devotion.

あひとう

Blank lined area for writing the prayer request.

準備する資料

きゆう しかく きぬ おもてうら にはりあわせてつくってください



この世でいちばん大きなプレゼント



受け入れの祈り

愛の神様！

私は神様を離れた罪人です。
 神様を離れたゆえに起きた問題の理由も知らずに生きていました。しかし、神様が私をととも愛してくださって、神様に会うことができるように、イエス・キリストを送ってくださったことを信じます。きょう、そのイエス・キリストが私の主人になってくださりすべての問題を解決して下さることを信じます。

私の心のとびらを開け、イエス様をキリストとして、私の主人として受け入れます。

生きておられるイエス・キリストの御名によってお祈りします。
 アーメン！

おめでとう！
 いま、あなたも
 神の子どもになりました！

もうすぐ、クリスマス！
 クリスマスのひみつをおしえてあげるね！



魚は水の中で生きるように
 鳥は空を飛ぶように
 木は地に根をおろすように、造られました。
 このようにすべてのことには、いるべき場所があるように造られた方がおられます。それが神様です。

そして神様は、私とあなたを神様とともにいるように造られたのです。しかし、神様を知らないようになって会えないようになってしまいました。理解できないのろいとわざわいまで体験するようになったのです。神様とともにいるべきだったのにともにいることができないから起きたことです。

神様は、このような私たちをととも愛してくださっています。キリストであるイエス様として、この地に来てくださったのです。クリスマスは、キリストを記念する日です。キリストであるイエス様は、3つのことをされました。

- 1つ、神様に会えないようにさせる罪を解決されました。
- 2つ、私と神様を会えないように妨げるサタンを踏み砕かれました。
- 3つ、神様に会う唯一の道になってくださいました。

その方に出会うことが、最高のことです。私はあなたに最高のことをプレゼントであげたいのです。このプレゼントを、あなたがもったら、私たちはすべて幸せになります。その方に会うにはどうすればよいのか。次のページを開いてね。



23

どうぶ

「ただ（ひたすら）」の おくぎを する ひとたち

使徒
1章 14節

この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。

「ただ（ひたすら）」とは、他はなくて、ただその事だけに心が向かうという意味です。初代教会の信徒は、この奥義を知っている人たちでした。

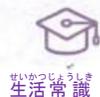
最初に「ただイエスだけがキリスト」という奥義を知っていました。（マタイ 16:13～20）ペテロは、神様の恵みで「あなたは生ける神の御子キリストです」という告白をしました。二つ目「ただイエスがキリスト」という奥義を体験しました。（使徒 1:1、3、8）カルバリの丘で、十字架と復活を体験した弟子たちが、オリブ山で神の国を体験して、マルコの屋上の間で聖霊の働きを体験しました。彼らは、いのちをかけて福音を伝えた初代教会の構成員になりました。三つ目、「ひたすらミッション」の奥義を分かりました。（使徒 1:14）イエス・キリストの福音を知って体験した人々が集まった所が、マルコの屋上の間教会でした。彼らはひたすら祈りながら、行くすべての所で福音を伝えるミッションを実践しました。

私たちも今日、ひたすら福音、祈り、伝道の奥義の中に入りましょう。神様が、ひたすらイエス・キリストを分かるひとりを待っておられるからです。

きょうのみことば

きょうのいのり

父なる神様！ただイエスがキリストだという福音を知らせてくださってありがとうございます。ひたすら福音、祈り、伝道の奥義を持って、この世を生かすすきなレムナントとして育てますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



「ひたすら」の奥義を知っている神の子どもは、この世を生かす準備をしなければなりません。必要な知識を身につけて、成功者が知らない霊的知識も育てましょう。

知識辞典



マルコの屋上の間



ケナクルム (cenaculum、食堂) と呼ばれるマルコの屋上の間。新約聖書によれば、イエス様がローマ軍に逮捕される前日、十二弟子とともに最後の過越の晩餐を過ごされた屋上の間だと伝えられています。これが今日の聖餐式の起源だとも言われています。（マルコ 14:12-25、ルカ 22:7-13）また、イエス様が昇天された後、イスカリオテのユダの代わりにマツタヤを弟子に選んだ場所で（使徒 1:12-26）イエス様の弟子たちが五旬節に聖霊を体験した場所です。（使徒 2:1-3）

今日のマルコの屋上の間は、エルサレムの町の、シオンの門から外側に約100mの距離にある2階建ての石造りの建物にあります。屋上の間内部は、ロマネスク様式で、3本の中心の柱と周囲の壁に沿ってたてた柱が曲線につながってアーチになって天井を支えています。A.D. 70年、ローマ皇帝ティトゥスによってエルサレムが占領された時は、被害を受けませんでした。しかし、614年にペルシャ軍隊の侵入により、多くの部分が破壊されました。十字軍がエルサレムを占領した後、1176年にダビデ王の墓が建物の下の階に置かれました。上の階は、モデストゥス (Modestus) という修道士によって現在の姿に再建されました。その後、1333年から1552年まで、フランシスコ会によって管理されました。しかし、オスマン帝国が統治するようになって、建物の上の部分がモスクに改築されました。1948年、イスラエル建国以後、また、ローマカトリックの所有に戻りました。

きょうのでんどう

あひと 会う人

じゆんび しりょう 準備する資料